

高野町立高野山総合診療所

3年 岡野 督

実習施設 高野町立高野山総合診療所
実習期間 平成28年8月1日～8月3日
指導医 廣内 幸雄 先生（和歌山1期、院長）

〈目的〉

- ・ 観光地の医療を特色とする高野山を知る
- ・ 山中のへき地診療を知る
- ・ すでに2年次で行った中国・チベット文化圏の医療と比較

〈高野町の概要〉

人口3000人余、真言仏教の宗教都市。山中にはロープウェイを使うほど険しい場所だが、奇跡的に盆地が存在しており、その5km×4kmの範囲に町の人口と寺院のほとんどが位置する。「紀伊山地の霊場と参詣道」として、ユネスコ世界遺産に登録、世界中から年間約150万人の観光客が訪れる。



〈高野町総合診療所の概要〉

昭和20年、金剛峯寺の私立厚生病院として開院、昭和41年高野町立高野山病院。入院患者の減少から、平成24年、診療所になり、現在は訪問看護を中心とした福祉に力点を置く。2次医療機関まで、車で約1時間。

常勤医師4名のほか、非常勤医師7名、看護師8名、看護助手2名、理学療法士1名、事務5名。X線、エコー、心電図、内視鏡、CTのほか、一般検血・生化学・尿検査・スパイロメトリーといった機器があった。病院時代には手術室があった。

〈実習について〉

- 8/1 午前：あいさつ回り。役場、教育委員会、消防署など。
午後：Dr.廣内（慢性疾患を中心とした予約外来）
- 8/2 午前：事務および放射線検査
午後：訪問看護、観光客の診療

8/3 午前：検査、エコー

午後：Dr.廣内

〈考察〉

1日朝、診療所の入り口がわからないために近くにいた女性にうかがうと、その方は役場の職員だった。実は、役場と診療所が隣り合っているのである。まずそこから、行政と診療所の”近さ”が印象に残った。その女性は、院長が自治医大1期であることをご存じだった。その後のあいさつ回りで行った役場のデスクの一つに彼女がいらしたことは言うまでもない。

院長が担当しているのは慢性疾患を中心とした外来だが、先生はいろいろな意味で時間的な経過を重視しているようだった。具体的には、前の来院時のレントゲン写真等との比較、継続的な禁煙指導が、1日目の見学だけでもわかった。異常がなくても、画像をスケッチするなど念を入れていた。それだけでなく、住民の側でも継続的な治療行為への参加（服薬だけではなく、先生にお礼を毎度言い続けている様子だった）があった。

2日目、最初にわかったことは「宿坊との連携」である。宿坊の手配と、泊まる日にちの調整は、診療所をお願いしていた。実はその宿坊は、かつて中尾学長がいらしたときに泊まった施設だという。コストはかかったが実にきれいな場所で、お坊様も修行に励んでいる様子だった。このようなカタチの連携もあるのだと思った。

午後、訪問看護があり、私は3名の患者さん宅をまわった。うち1名は、気難しく普段は外部の人を入れない娘さんが外出中で、運よく学生も参加させていただいた。清拭や入浴介助など、私は第三者的視点からでしか見られなかったが、それでも狭い範囲ゆえの濃密な人間関係が垣間見られた。あだ名でわかる濃密さは、実家付近のそれと似ていた。

3日目は、院長先生の高野山36年の経験談を聴いたほか、観光地の医療の特色も聞いた。観光地の医療は、ジェネラルな診療はもちろん、観光客を帰すかどうかの判断も必要だという。昨年の開創1200年大法会の2か月を調べてみると、60万人の観光客のうち、診療所に来た人数は89名、外傷と循環器疾患が多かったそうだ。

実際、その日の午後、英語圏から来たと思われる女性が診療所を訪れた。原因不明の発疹が、四肢を中心にできていた。私程度の英語力でも、肝炎ウイルスの英単語を言って診療を助けるくらいはできた。

〈その他〉

私が高野山を選んだ理由は、院長先生が自治1期ということもあるが、仏教の学習という目的も大きい。実際、今回訪れてみて、哲学的な収穫はたいへん多かった。

空海は9世紀、唐に留学し、当時の最先端の仏教を仕入れ、かつ日本の従来の思想との総合的な融合に、かなりの功績を残した。さらに、空海が正式に伝えた真言密教は、世界の仏教史上でもトップレベルに質の高いものである。ここでいう質は、インド・ナーランダーの哲学に近い、と定義されるが、それはチベットの仏教ともたいへん近い。

私は去年8月、中国西北部のチベット文化圏に行き、現地の医療を見学してきた。チベットでの経験はわずかだったが、少なくとも高野山の医療とは、比較分析に足る。その根拠は、

- ・民衆の仏教信仰が篤く、かつその系統に近い
- ・原則、チベットの医院も、プライマリ・ケアを担当する

そして、チベットと高野山の医療の共通点は

- ・何十年来、地域住民に愛される医療者
(チベットでは、お寺が医院を兼ねており、ドクターはお坊さん)
- ・規模は同等 (医師・看護師合わせてチベット8名、高野山12名)、
様々な活動を展開 (チベットは薬草を自ら採集して丸薬にするほか、祈りのお堂、薬浴室が完備。高野山では、訪問看護と観光地の救急)

相違点は

- ・チベットでは、医師を訴えるという概念が存在しない。医師は尊敬されている。
- ・伝統医療と近代医療の理念と実践に、相違点がある。

また、日本でも、高野山と近い和歌山県紀の川市に、華岡青洲の医療があり、それはチベットのような伝統的精神と科学的な考えを大切にしていた。私は帰途、青洲の施設 (道の駅) を見学した。



〈謝辞〉

廣内院長先生をはじめ、診療所の方々と大学には多くの支援をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



前列左から2番目の方が廣内院長、
前列のいちばん右の方が特にお世話になった中上事務長